

現代短歌分類辭典

別名 現代短歌總索引

第六十七卷

津 端 亨 編 纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辞典

第六十七卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辭典

67

昭和五十七年六月二十五日發行 定價一、八〇〇円

著者發行
兼印刷者

津 端 亨

東京都台東区鳥越一—十一—八

發行所

現代短歌分類辭典刊行所

▽111

代表 津 端 亨

振替 東京 三十九三一四番
電話 〇三(八五)九八六九番

目

次 (第六十七卷)

いきゝゐゝむ
 生きゝゐゝむゝか
 生きゝゐゝむゝが
 生きゝゐゝむゝも
 いきゝゐる
 いきゝゐるゝごとき
 いきゝゐるゝごとく
 いきゝゐるゝごとし
 いきゝゐるゝと
 いきゝゐるゝも
 いきゝゐるゝや
 いきゝゐるゝば
 いきゝゐるゝん
 いきゝゐる

二 一 一 一 一 一 三 三 一 六 一 一 一 一

" " ハ " " " セ " 六 " " " " 一

いきゝをゝこらす
 いきゝをゝころす
 いきゝをゝしづむる
 いきゝをゝたつ
 いきゝをゝつきゝをりゝし
 いきゝをゝととのふ
 いきゝをゝぬく
 いきゝをゝのみゝたり
 いきゝをゝはきゝつつ
 いきゝをゝはく
 いきゝをゝひく
 いきゝをゝひそめる
 いきゝをゝふきゝつつ
 いきゝをゝらゝぬゝらし

一 一 一 一 一 二 一 一 一 一 一 一 二

二 " " " " 一〇 " " " " " " 九 ハ

いきーをらーむ	一	二	いきーんーなど	一	二五
いきーをり	三九	〃	いきーんーにーは	一	〃
いきーをりーき	一	一四	いきーんーのみ	一	〃
いきーをりーしかーば	一	〃	いきーんーは	二	二六
いきーをりーて	六	一五	いく	二〇	〃
いきーをる	二	〃	行く(連体形)	二	二八
いきーをるーごとき	二	一七	活く	二	二九
いきーをるーも	二	〃	生く(終止形)	一五三	〃
いきーをれーば	四	〃	生く(連体形)	二三	四二
いきーん(終止形)	一五	一八	いくあかり	二	四四
いきーん(連体形)	二三	一九	いくーあき	一四	〃
医禁	一	二	いくあきはな	一	四六
いきーんーと	三	〃	いくあけくれ	二	〃
いきーんーとーぞ	四	二四	幾朝	三七	〃
いきーんーとーて	一	〃	いくあし	三	四九
いきーんーとーは	一	二五	幾蛙	一	〃
いきーんーとーも	一	〃	いくあゆみ	一	五〇

幾行
幾曲
幾曲折
幾切
幾キロ
幾茎
幾くぎり
幾種（くさ）
生く葉
幾くだり
幾口
幾国
幾国原
幾くねり
幾組
幾組みあへーる
いくぐり

一 三 三 二 四 四 一 四 九 一 一 一 一 一 一 一 二

八四 八五 〃 〃 八六 〃 〃 〃 八七 〃 八八 〃 〃 〃 〃 〃 〃 九三

幾繰返し
幾魂（くれ）
幾顆
幾回
幾貨車
幾画布
幾巻
幾貫目
幾群
幾群落
幾競馬
幾系列
幾桁
幾けぢめ
幾月（げつ）
幾ゲーム
いくーけれど

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

九三 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

幾軒
幾戸
幾個
郁子
幾木枯
幾国
育子さん
幾こだま
育子ちゃん
幾こま
幾戸前
幾声
いくさ
いくさ(兵隊)
いくさ遊び
いくさあと
幾才

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二

六 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 六

幾歳頃
幾艘
いくさうた
いくさ馬
生坂
幾尺(さか)
いくさがたり
いくさがたり(画題)
いくさがみ
軍神大山祇
軍神たけみかづち
軍神広瀬
軍神和多志神
いくさがり
軍衣(ぎぬ)
いくさ君
いくさ后

二 二 六 二 二 二 六 七 三 一三 二 二 一 一 一 一 一

一五三 〃 一五四 〃 一五五 〃 〃 一五六 〃 一五六 〃 〃 一五九 〃 〃 〃 〃 〃

いくさごころ	一	一五九	いくさせーぬ	二	一六二
いくさごと	一	"	いくさせよ	一	"
いくさごとし	一	一六〇	いくさせーり	一	"
いくさーさせーばや	一	"	いくさせーりーけむ	一	"
いくさーさなか	一	"	いくさだち	一	一六四
いくささしせーり	一	"	いくさだちせーる	一	"
いくさしーて	六	"	いくさだて	一	"
いくさしーに	一	一六一	いくさだより	四	"
いくさしーにーける	一	"	いくさーちよくご	一	一六五
いくさす	二	"	幾冊	二六	"
いくさすーらしーも	一	"	幾さと	三	一六七
いくさする	三	一六二	いくさなかば	一	一六八
いくさするーなり	一	"	いくさならし	四	"
いくさすれーば	一	"	いくさならはし	一	"
いくさせーざらーむ	一	"	いくさにん(軍人)	一	一六九
いくさせーし	一	"	いくさのかみ	八	"
いくさせーず	二	"	いくさのきみ	三	一七〇

いくさーのーくに	一	一七〇	いくさぶね	六五	一八六
いくさのくるま	一	〃	いくさみ	三	一九一
いくさーのーころも	一	〃	いくさみなと	一	一九三
いくさーのーち	一	一七二	いくさもののめきーて	一	〃
いくさーのーには	三五	〃	いくさめつけ	一	〃
いくさーのーのり	一	一七四	いくさもののか	二	〃
いくさのはた	一	〃	いくさものがたり	一	〃
いくさーのーひ	一	〃	いくさら(軍人ら)	五	一九三
いくさーのーひと	一	〃	幾皿	二	〃
いくさのふね	五	一七五	いくさわらじ	一	〃
いくさぶり	一	〃	いくさだより	一	一九四
いくさーのーみち	一四	〃	育蚕	一	〃
いくさーのーみなと	一	一七七	幾山河	一	〃
幾沢	一	〃	育児	一	〃
いくさばた	一	〃	幾時	三	〃
いくさび(兵火)	五	〃	幾匙	一	一九五
いくさびと	九三	一七八	一斎串	五	〃

幾週	一	一九六	幾十	二八	一九九
幾時間	二	"	幾十億	一	二〇二
幾時間後	一	一九七	幾十代	一	"
いくじき	一	"	幾十台	一	"
幾時雨	三	"	幾十条	一	"
いくしげり	一	"	幾十度	二	"
育兒書	一	一九八	幾十日	二	二〇三
幾室	一	"	幾十人	四	"
幾十回	一	"	幾十年	九	"
幾十冊	一	"	幾十年振	一	二〇四
幾十尺	一	"	幾千百	三	"
幾十種	一	"	幾千百段	一	二〇五
幾十羽	一	一九九	幾十房	一	"
幾十発	一	"	幾十枚	三	"
幾十尾	一	"	幾十万	六	"
生品山裏	一	"	幾十万人	一	二〇六
幾芝山	一	"	幾十万年	一	"

幾十棟	一	二〇六	いくす	一	二四
幾十メートル	一	二〇七	幾数十年	一	〃
幾十里	三	〃	幾数十万年	一	〃
いくしほ	一	〃	幾すぎむら	一	〃
いくしぼりし	一	〃	幾裾	一	〃
生島	一	〃	幾筋	二〇	〃
生島足島	一	二〇八	幾瀬	一五	二三
幾島山	一	〃	幾	二	二三
幾霜	一	〃	幾世紀	二	二三
幾章	三	〃	幾星座	一	〃
幾尺	三	二九	幾星霜	四	〃
幾首	一六	〃	幾隻	四	〃
幾種	一八	二〇	幾世帯	二	二三
幾種類	一一	〃	幾世代	五	〃
幾句	一	二三	幾町	二	二三
幾春秋	三	〃	幾千	六一	〃
幾白旗	一	〃	幾千海里	一	二四〇

幾千株	一	二四〇	幾千円	一	二四四
幾千きろ	二	"	いくそ	一三	二四五
幾千古	一	二四二	幾層	五	二四六
幾千個	一	"	幾層屋	二	"
幾千首	一	"	幾足	一	"
幾千日	一	"	いくそたび	六	二四七
幾千人	一	"	いくそとせ	一	二五二
幾千年	二	"	いくそにち	一	"
いくせんーのーよろづ	一	二四三	幾十許	四	"
幾千房	一	二四三	いくそびと	一	二五三
幾千本	一	"	幾太(人名)	一	"
幾千枚	一	"	幾多	七	"
幾千マイル	一	"	いくだ(幾許)	二	二五四
幾千万	二	"	幾体	三	二五五
幾千万人	一	"	幾隊	一	"
幾千万年前	一	二四四	幾代	八	"
幾千里	五	"	幾台	一五	二五六

幾台目	一	二五八	いくたびーと	二	三八
いくたがき	一	〃	いくたびーとしなく	二四	〃
いくたぎりする	一	〃	いくたびーにて	二	三四一
幾棚	一	〃	いくたびーの	二	三四二
幾鈴	一二	二五九	いくたびーも	二九	三四三
幾谷あひ	一	二六〇	いくたひら	一	三六三
生田の森	一	〃	いくたびーや	一	〃
幾束	三	〃	いくたびーを	一五	〃
いくたばね	一	〃	いくたま	二	三六四
幾俵	一	二六一	いくたむろ	二	三六五
幾たび	二六〇	〃	いくたむろせーる	二	〃
幾たびか	六三七	二八三	合計 三、九四首		
いくたびし	一	三三六			
いくたびしぬと	一	〃			
いくたびす	一	〃			
いくたびする	一	〃			
いくたびーぞ	二〇	三三七			

いきーゐーむ【動詞・動詞・助動詞】

来年は無論生きゐむその次は次はと心細しも⑨

尾山篤二郎

生きーゐーむーか【動詞・動詞・助動詞・助詞】

誰も誰も夢は持ちつつ生きゐむかこのアパートの十六の部屋⑩

都筑省吾

生きーゐーむーが【動詞・動詞・助動詞・助詞】

頬をつたふ薬のしづくおさへつつ物見物書く生きゐむがため⑦

尾上柴舟

生きーゐーむーも【動詞・動詞・助動詞・助詞】

生きゐむもおもしろからむかくながらいのち消えなば更に楽しき

尾上柴舟

いきーゐる【動詞・動詞】

ああ本当に疲れたと思ふ夜半の机生きゐることもすではかなく②

斎藤喜博

秋の日を浴びてひそけく歩みゆく生きゐることは楽しくぞありけり⑤

金子不泣

秋更けて命生きゐる弱き蚊を殺さんとせずしばし臆れり②

辻本敬三

いきーゐーむ

いきゝゐる

あささむを夜さむを耐へて生きゐるに氣まふるまふ吾とみゆるか④ 米田雄郎

朝の店花も果実もみづみづと生きゐる季を徴恙がきざす③ 清水恒子

あすあすと目ざし生きゐるわれながらいつとか言はむ過去に入る日は③ 清水乙女

あらしのなか葉裏かへして木々ゆらぐ生きゐるものはゆすぶられやまぬ② 横田専一

ありふれて今日も生きゐるわが肌に秋の氣いたく沁み来るかな④ 尾上柴舟

いつまでも枕べの灯を消さずして世にひとりにて生きゐる思ひ④ 村田利明

生きゐるはなべてあらがふ生々しくいろ変りつつ木は風のなか② 横田専一

生きゐるをいたくあはれに思ふなところゆたけく祈りゐるなと④ 村田利明

温泉よりわが帰りきていく日か恰うつろのごとく生きゐる① 鹿兒島壽藏

いにしへのインカ帝国の国址に日本語教へてわが生きゐるか(新萬葉集九)小川奈雅夫

今のいま生きゐる奢り言ひ合ひて喪服のままに入るレストラン(村野四郎)谷崎よし子

今もわが生きゐる不思議感じつつ年さかりゆく君を思ふも⑪(素月集)尾上柴舟